

試験研究評価シート（事後）

評価の種類	事後評価	担当名	保健科学担当
課題名 (研究テーマ)	徳島県における薬剤耐性菌検査に関する検討	研究者名	佐藤 豪
研究期間	令和元～2年度	研究に 要した時間 (概数)	令和元年度：200時間 令和2年度：100時間
予算額 (千円)	令和元年度：560 令和2年度：524	予算種類	県単
必要性	<p>様々な薬剤耐性菌（AMR）の検出例が世界的に増加し、2050年には薬剤耐性菌感染症による死亡数が、がん死亡数を抜くと予想され、我が国でも医療機関、高齢者施設等での院内感染や集団感染事例が多数報じられている。医療分野における感染症拡大のリスクの高まりに対して、感染症法の改正により、AMR感染症を診断した医師は、7日以内の届け出を義務付けられ、地方衛生研究所は、基本的な試験の実施と医療機関への情報提供を行うようになった。併せて徳島県においては、都道府県別抗菌薬販売量サーベイランスの結果より、抗菌薬の使用量が全国の中でも高いことから、県民へのAMRの拡大の未然防止は喫緊の課題である。</p> <p>そのため、従来より詳細なAMRの検査体制を整える必要があると考える。</p>		
目標	<p>AMRの遺伝子解析検査体制を確立、医療機関等における院内感染への迅速対応のための情報提供を可能とし、感染拡大防止及び、県民の健康維持に寄与することを目標とする。</p>		
研究内容	<p>カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）などの薬剤耐性菌について、遺伝子解析による迅速な検査体制を確立する。</p> <p>県内医療機関より提供を受けた菌株について、薬剤耐性傾向を集積・解析し基礎資料を得る。</p> <p>また、今後構築されるネットワークづくりの活用手法を考え、検査体制を整えることで得られた情報を速やかに医療機関等へ提供し、県内事例の解析へ還元することで耐性菌の蔓延防止を図る。</p>		
手法	<p>県内医療機関より提供を受けた菌株について、つぎの方法により調査を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 遺伝子解析法などを用いた分子疫学検査体制の確立 2) AMRの情報を集積し県内発生動向の基礎資料を作成 3) 行政機関、医療機関と連携したAMR感染症対策ネットワーク会議の活用手法を検討する。 		
成果	<p>本研究によって検討した遺伝子検査法により、AMR検査に係る標的遺伝子を大幅に増やすことができた。また、Multiplex PCR法の導入により、検査に係る費用や労力は大幅に減らすことができた。</p> <p>さらにパルスフィールドゲル電気泳動法により、現在までに搬入されたAMR株の泳動パターンを決定した。これにより、今後センターで検査するAMRを過去の検査株と遺伝子学的に比較し、系統解析を行うことができるようになった。</p>		
追跡評価	無		